

Executive Strategic Playbook & Diagnostic Briefing

知財業務におけるAIエージェント 展開アーキテクチャ

Manus, Perplexity Computer, Claude Coworkの
実力比較と最適技術スタックの構築

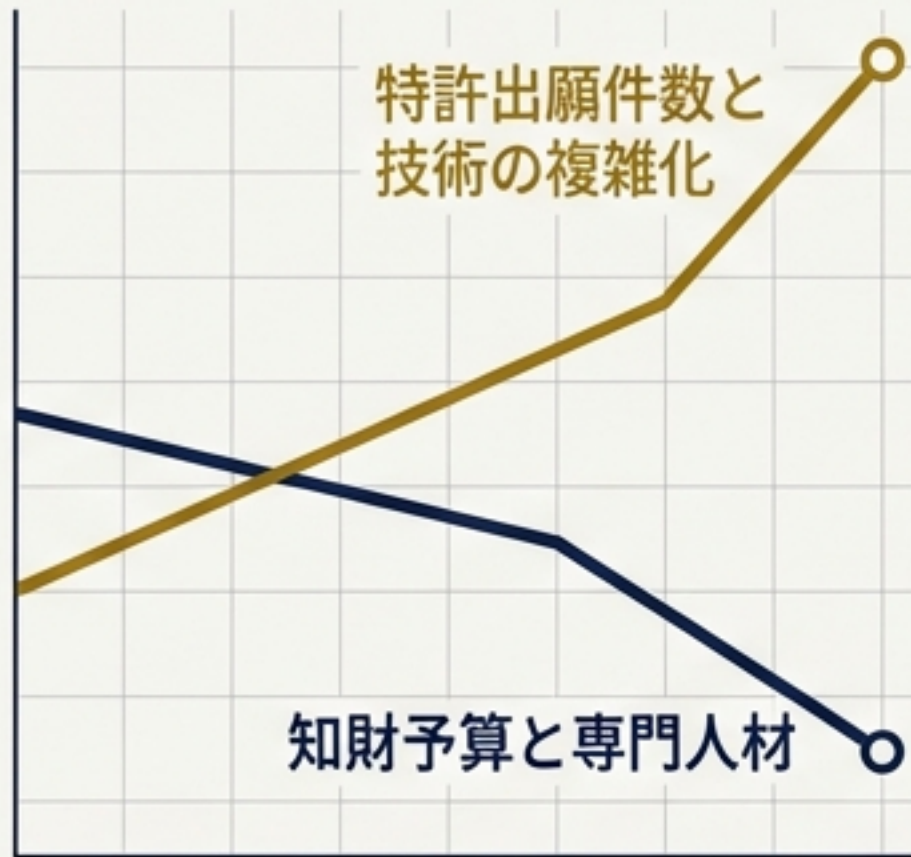


2026年 4月版

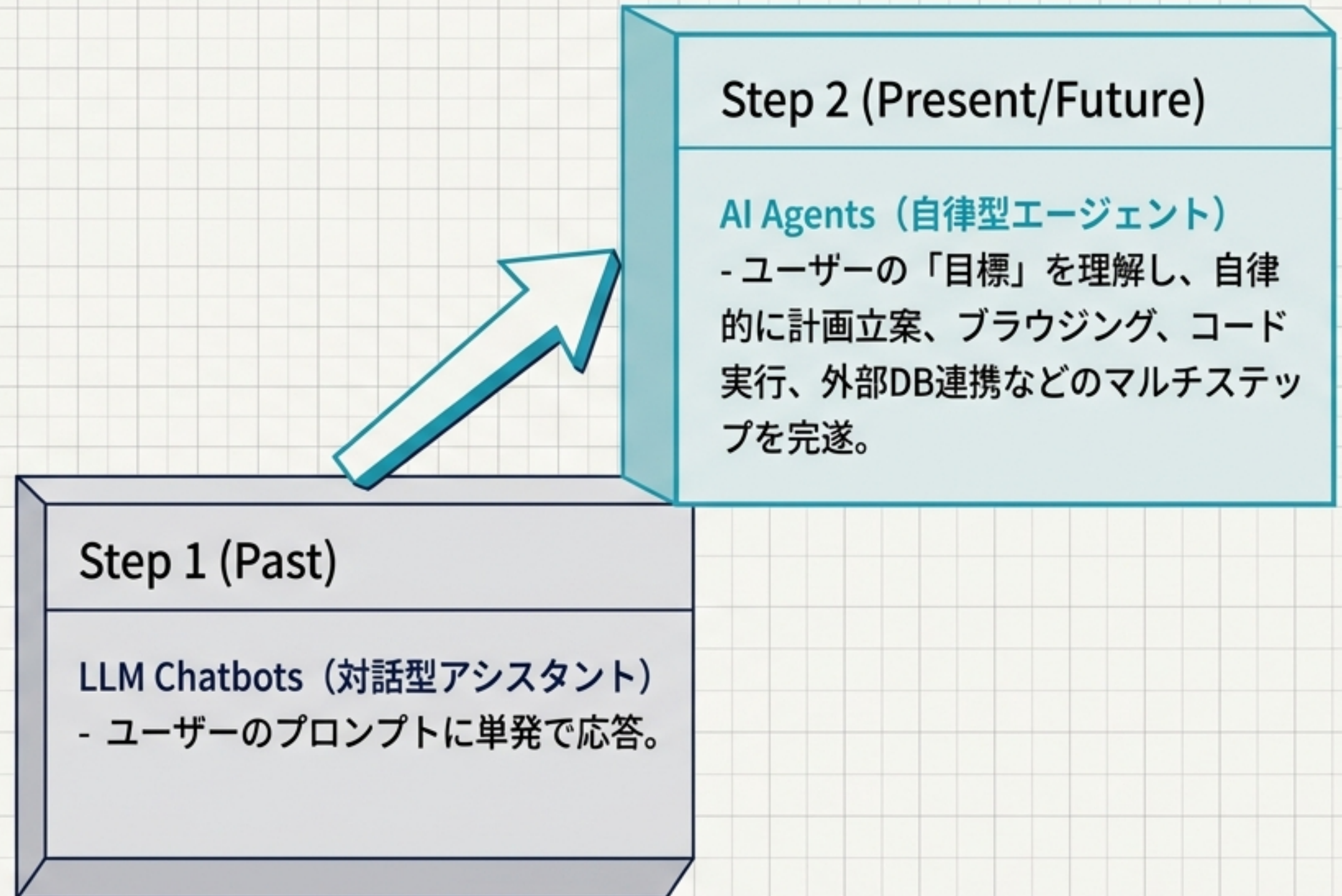


CONFIDENTIAL / INTERNAL USE ONLY



知財部門の構造的課題と「エージェント型AI」へのパラダイムシフト



グローバル技術覇権競争の激化により、特許出願件数の増大と権利化リードタイムの短縮が求められる一方、専門人材不足と外注費高騰が限界点に達している。



比較対象プロファイル：3つの異なる設計思想

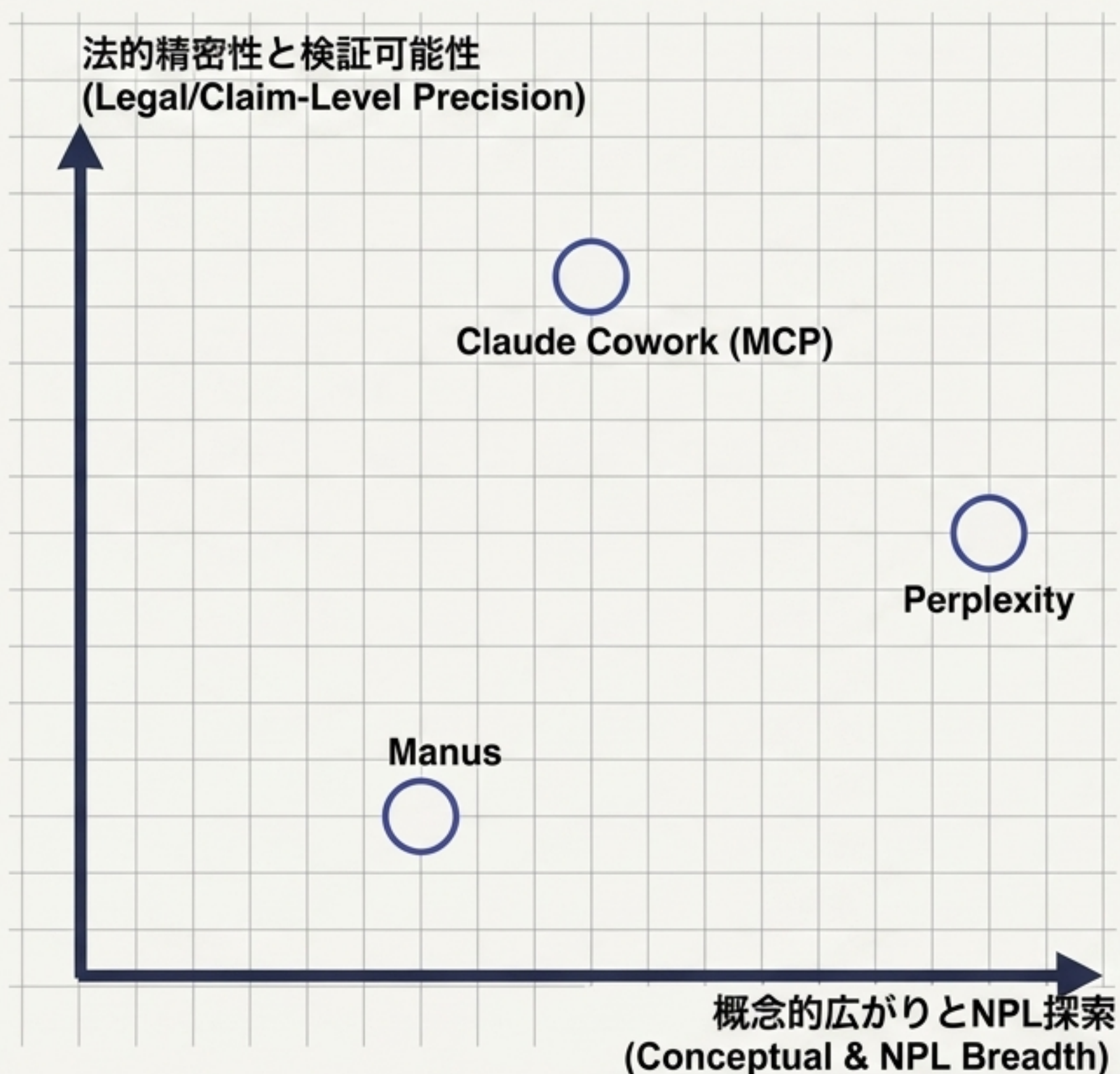
	Manus	Perplexity Computer	Claude Cowork
カテゴリ	汎用自律型 アクションエンジン	マルチモデル 汎用AIエージェント	エンタープライズ向け デスクトップエージェント
基盤モデル	Claude Sonnet 3.7等	19モデル協調 (Opus 4.6, GPT-5.2等)	Claude Sonnet 4.5 / Opus 4.6
価格体系	Standard \$20/月 ~ Max \$200/月	Pro \$20/月 ~ Team \$25/月	エンタープライズ契約 に基づく
セキュリティ スタンス	 機密情報入力に懸念 (SOC2未対応)	Enterprise Maxでのみ 組織レベル対応	 最高水準 (AWS・BYOM経由、 学習不使用ポリシー)

マスター・スコアカード：知財バリューチェーンにおける適性評価

Task	Manus	Perplexity	Claude Cowork
先行技術調査 (Prior Art)			
特許明細書作成 (Drafting)			
拒絶理由対応 (Office Action)			
FTO・侵害分析 (Infringement)			
IPランドスケープ (Landscape)			

結論：単一の完璧なツールは存在しない。タスクの「機密性」「法的厳密性」「探索の広さ」に応じた使い分けが必須である。

Task 1: 先行技術調査 (Prior Art Search)



Perplexity

Perplexity Patents機能による概念検索。「フィットネストラッカー」に対し「健康モニタリングウェアラブル」等の非特許文献 (NPL) を含む広範な初期探索に優れる。

Claude Cowork (MCP)

法律プラグイン経由の外部データベース連携。特許番号の正確な識別、クレームチャート作成、および検証可能性 (Verifiability) に強み。

Manus

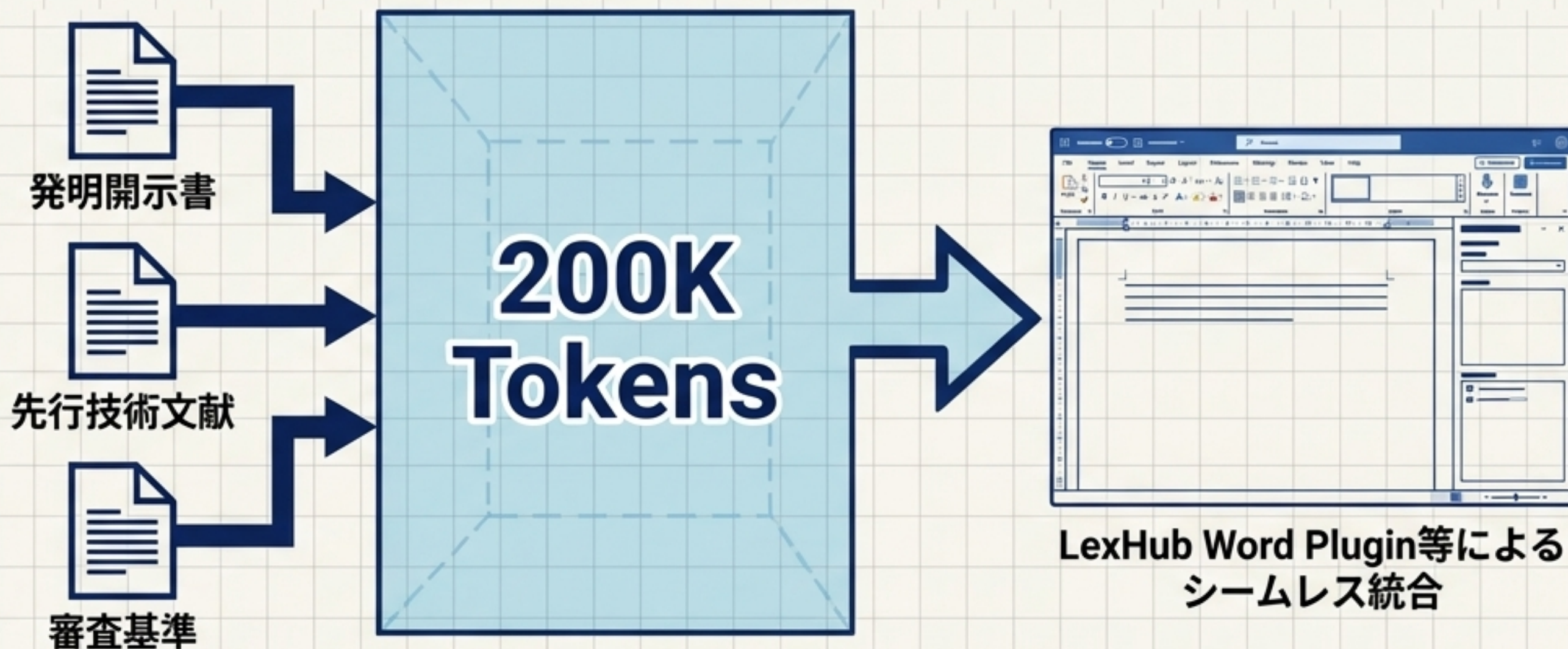
複数ソースの自律的収集を行うが、認証DBへのアクセスが不安定で、ハルシネーションによる特許番号の誤りが発生しやすい。

Task 2: 特許明細書作成 (Patent Drafting)

汎用モデルの限界

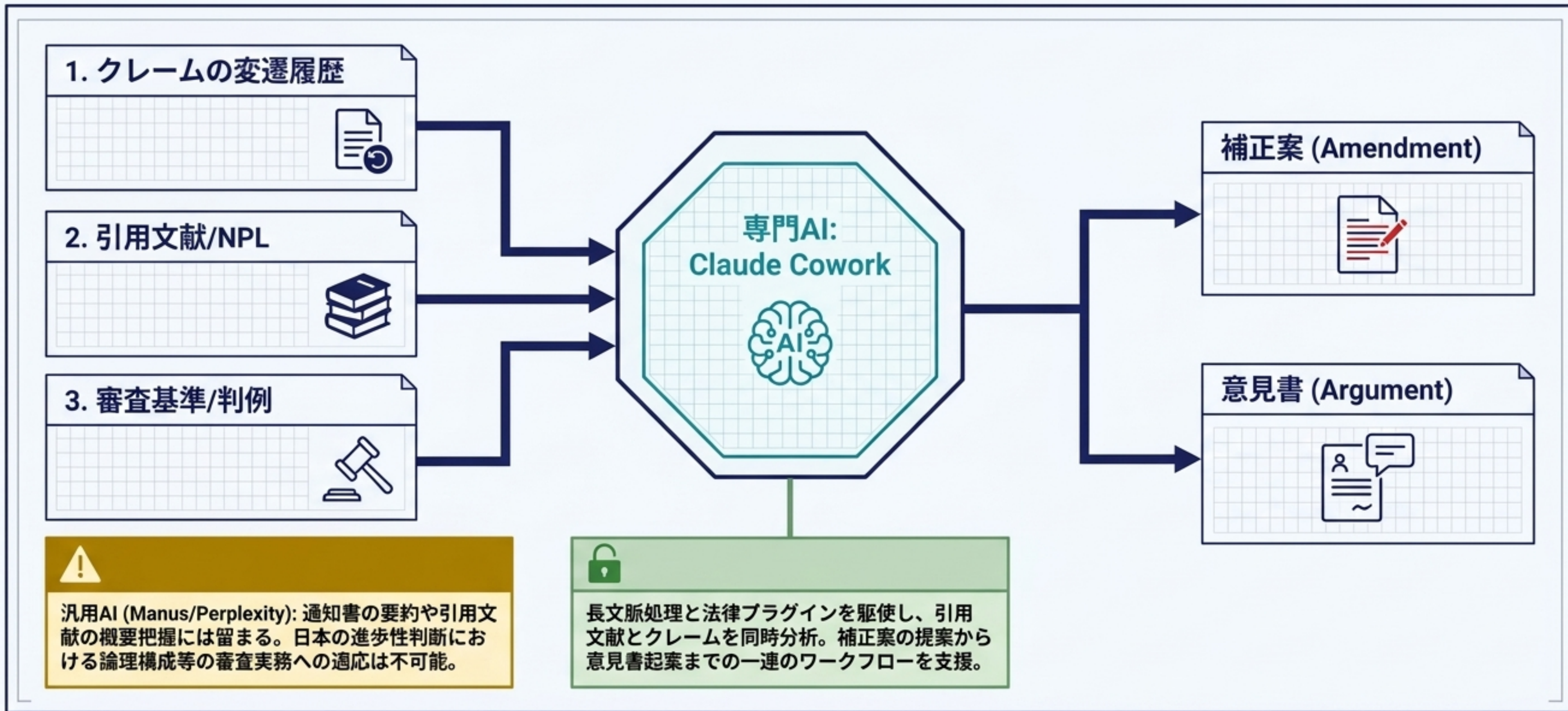
Manus / Perplexityは技術概要の整理や骨格作成には機能するが、特許の厳密な記載要件やクレーム構造設計の専門知識に欠ける。
(評価: ★2)

Claude Coworkの圧倒的優位性



- 長文脈処理 (200Kトークン) : 発明開示書からクレーム、明細書全文までコンテキストを失わず一貫処理。
- 課題: 日本語特許特有の専門用語対応には、プロンプト設計等の工夫が要求される。

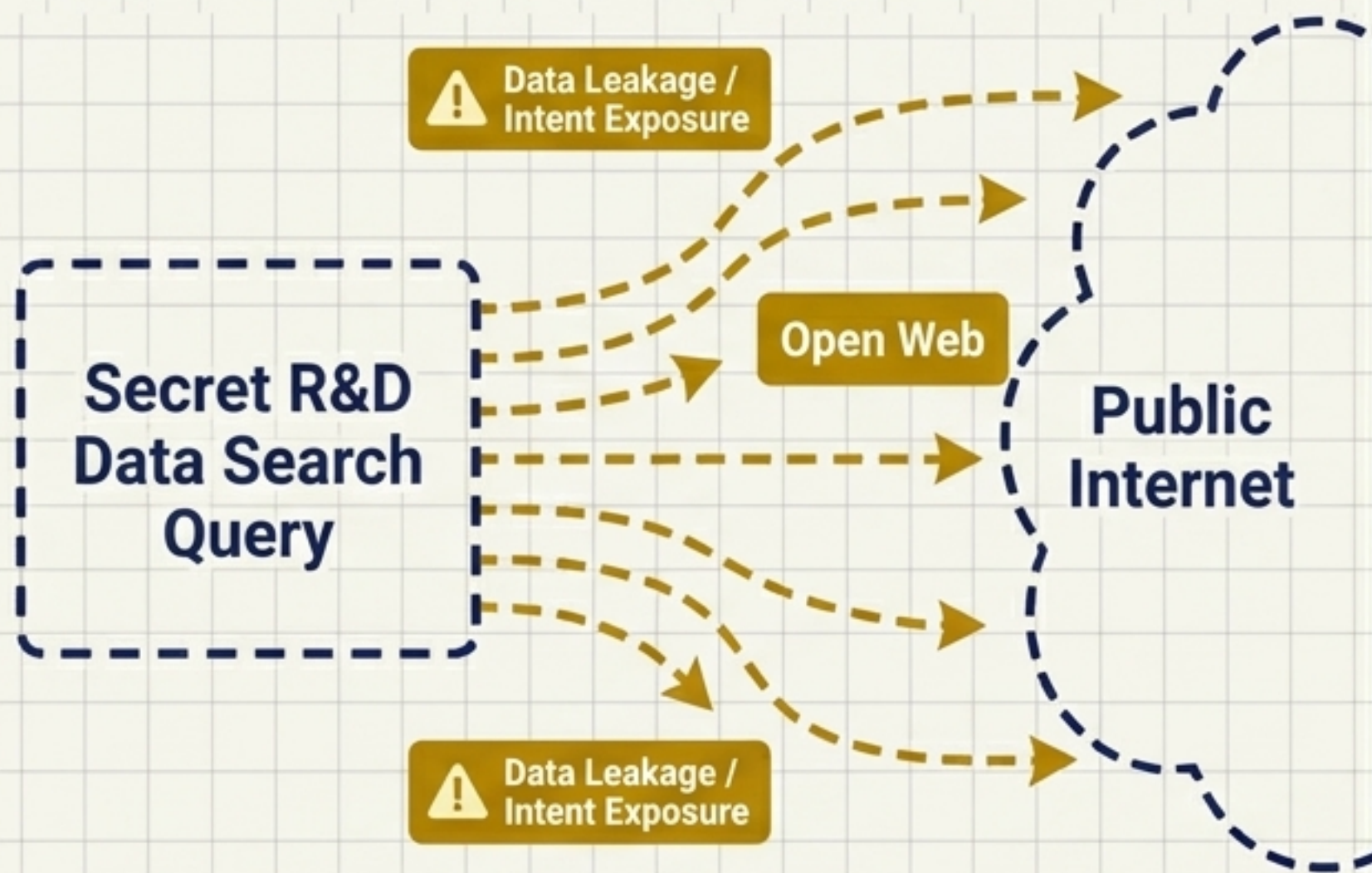
Task 3: 拒絶理由対応 (Office Action Response)



! 最終的な法的判断と論述の構築には、弁理士 (Patent Attorney) による専門的レビューが不可欠。

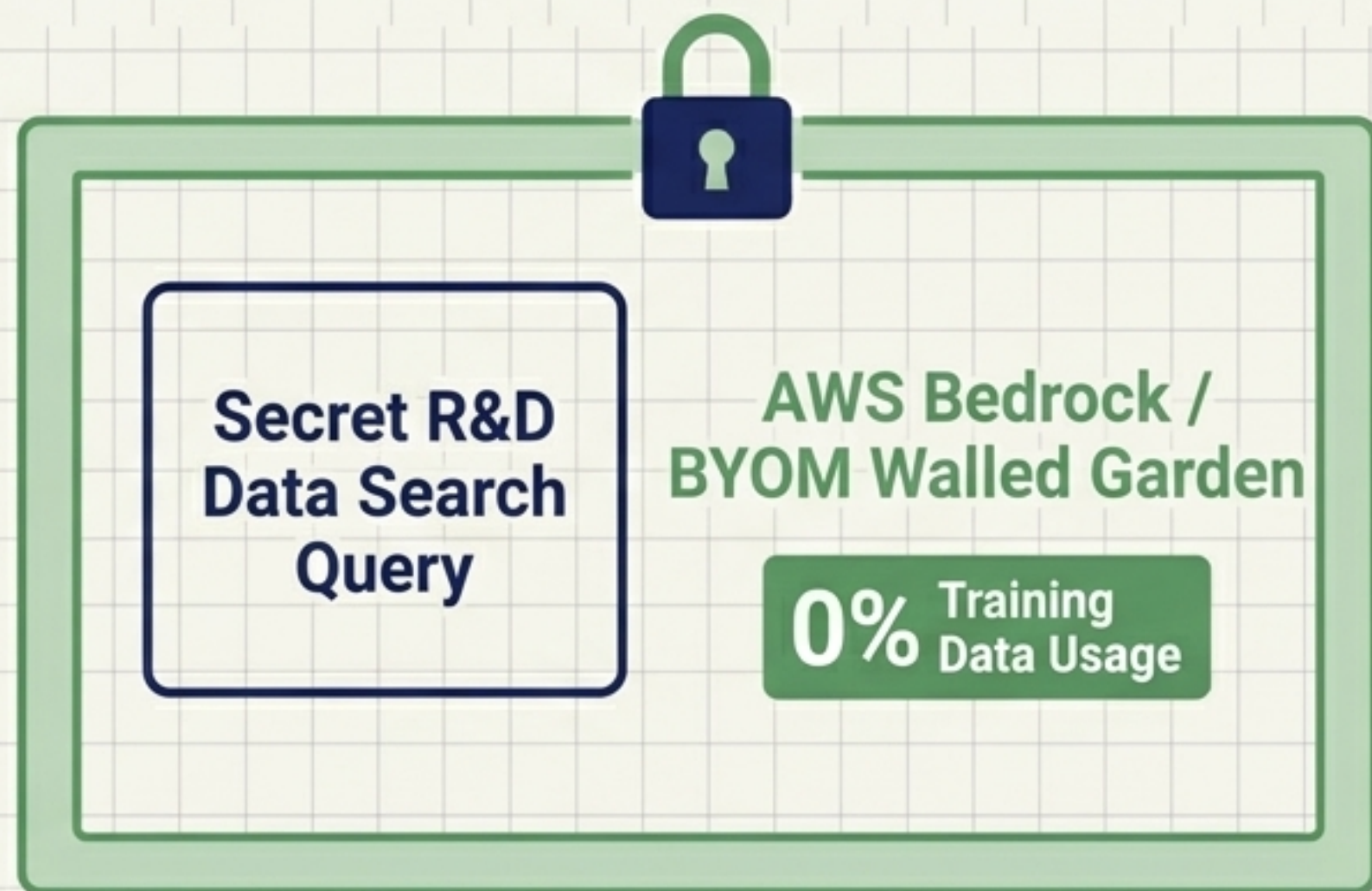
Task 4: FTO・特許侵害分析（極秘R&D情報の保護）

致命的なリスク (Manus / Perplexity)



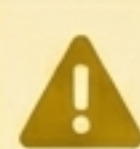
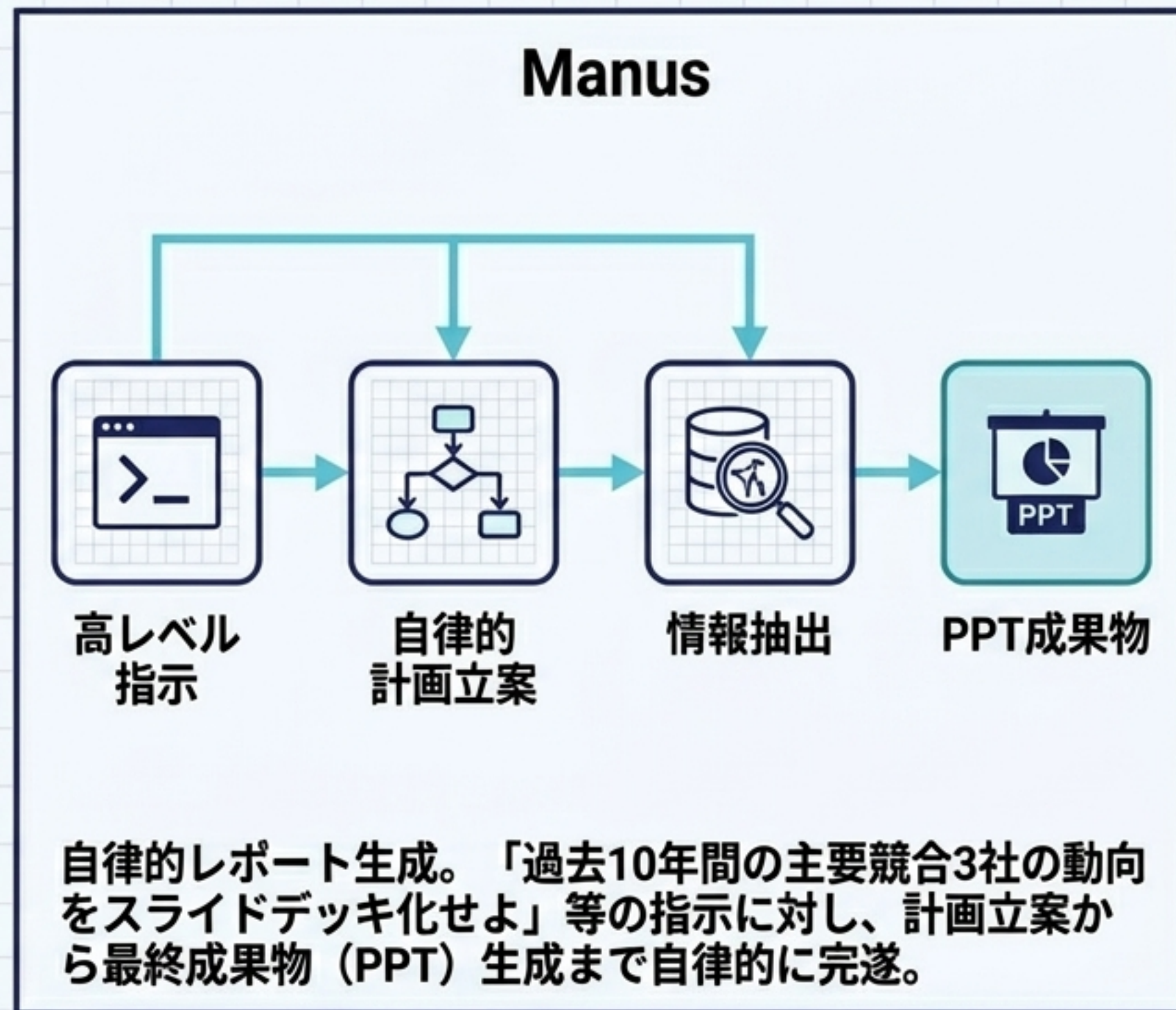
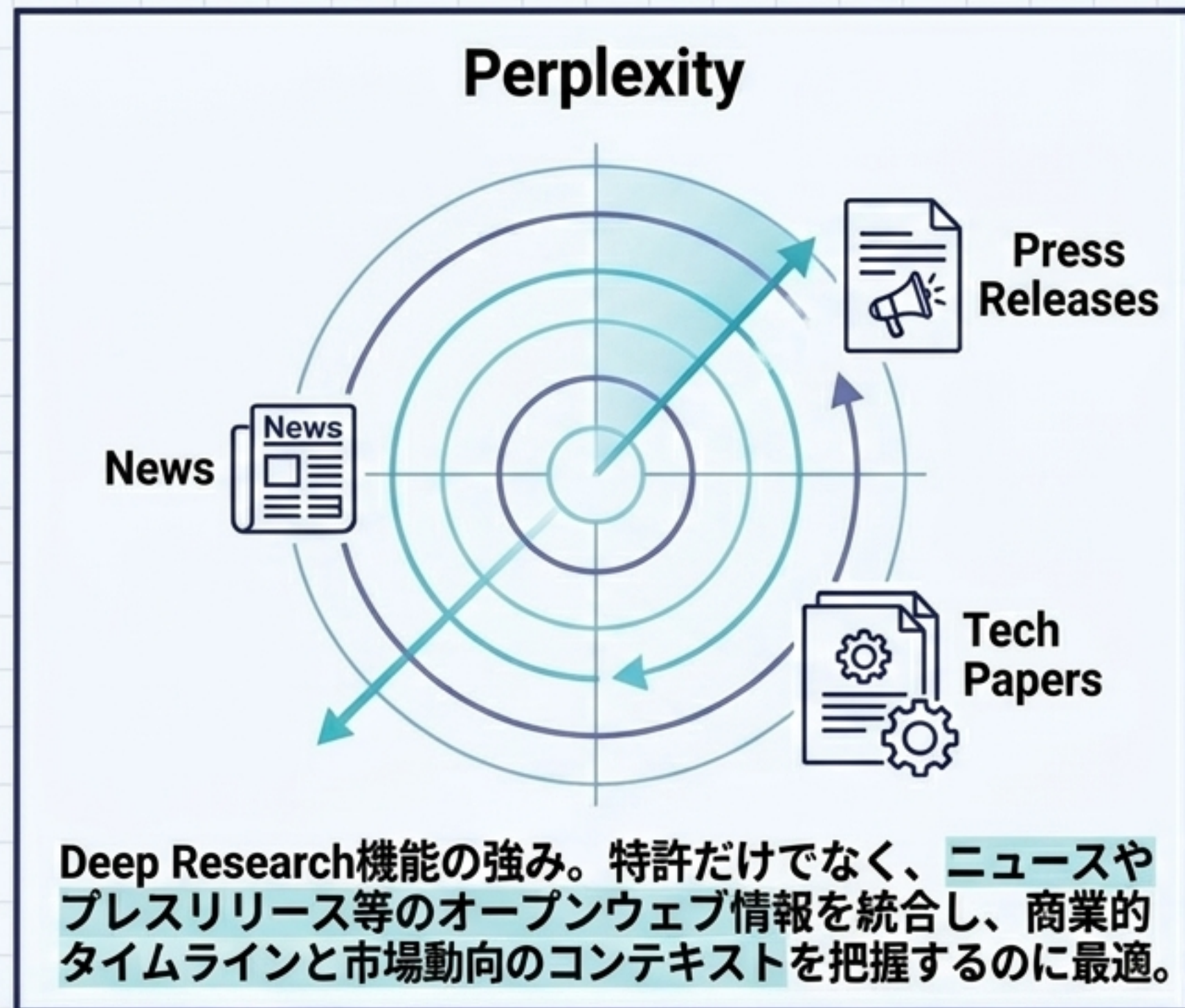
Manusや消費者向けPerplexityでの検索は、自社の戦略的意図（未公開プロジェクト）をオープンウェブ上に露呈させるリスクがある。FTO調査においては致命的。

唯一の選択肢 (Claude Cowork Enterprise)



Claude Cowork（エンタープライズ版）は、APIデータの学習不使用ポリシーと、AWS Bedrock等を経由したセキュアなデプロイ環境（BYOM）により、機密性の高い侵害分析に耐えうる唯一のアーキテクチャ。

Task 5: IPランドスケープ・競合特許分析



体系的な特許分類に基づく網羅的調査や、視覚的な特許マップ（パテントマップ）の作成には、依然として専用ツール（Patentfield等）との併用が必要。

エンタープライズ導入における構造的リスクと壁

⚠ セキュリティ認証の欠如

Manus（中国系）は2026年4月現在、SOC2等のエンタープライズ向け**セキュリティ基準を未取得**。**機密データの輸入は厳禁**。

⚠ ソース品質の混在（Verifiabilityの喪失）

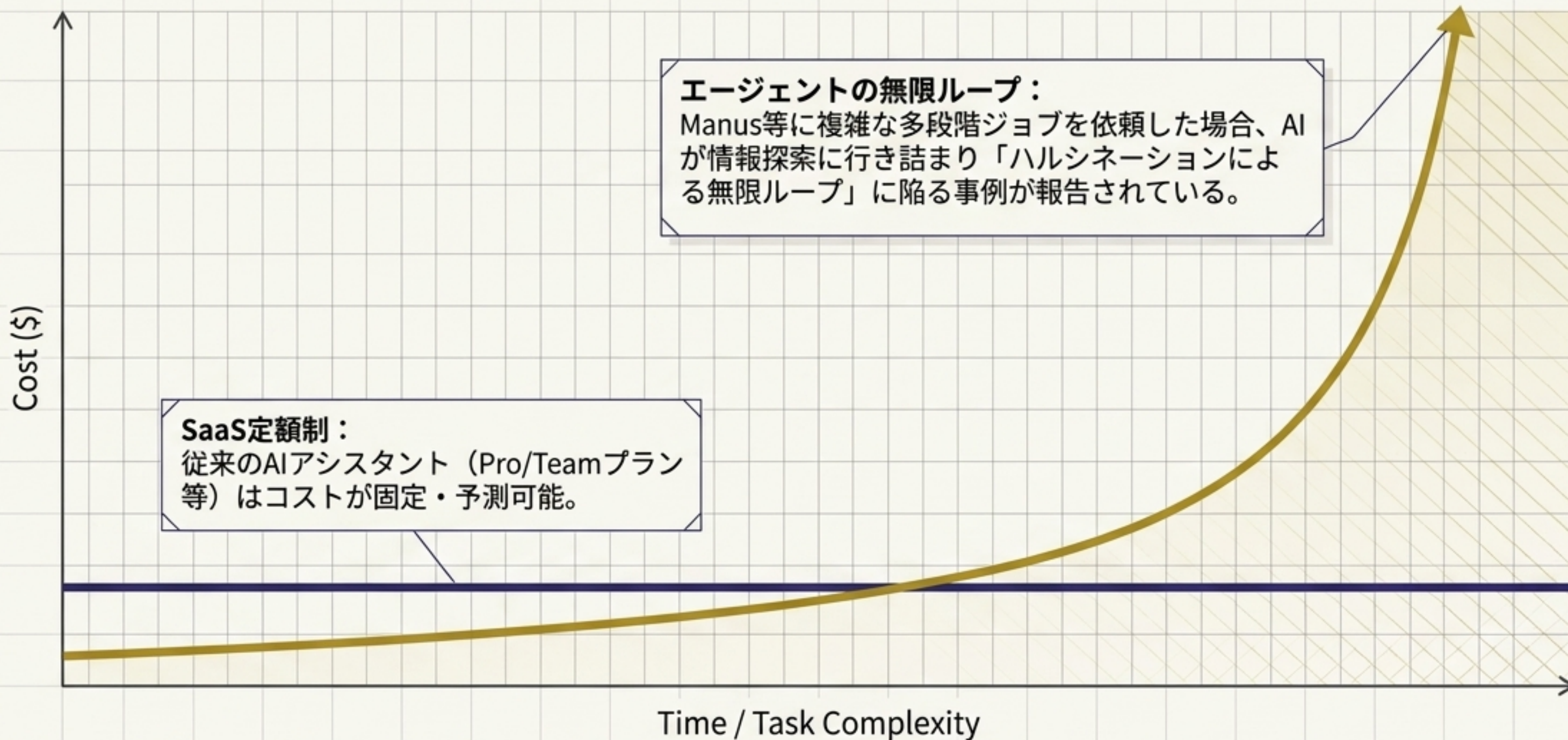
オープンウェブをクロールするツールは、査読付き論文・特許公報と、企業のPRブログを同等の重みで引用してしまうリスクがある。



“For R&D teams building business cases for multimillion-dollar research investments, this traceability is not optional. It is the difference between a recommendation and a defensible recommendation.”

– Cypris (2026)

財務リスク：「メーター制（従量課金）」の罠



SaaS定額制：
従来のAIアシスタント（Pro/Teamプラン等）はコストが固定・予測可能。

エージェントの無限ループ：
Manus等に複雑な多段階ジョブを依頼した場合、AIが情報探索に行き詰まり「ハルシネーションによる無限ループ」に陥る事例が報告されている。

実証データ：無計画な大規模調査により、約30分の処理で約10ドル等、予測不能な予算超過リスクが発生。

戦略的フレームワーク：適材適所のマッピング

法的厳密性とセキュリティ
(Legal Precision / Security)

Y-Axis

高厳密性・要制御

Claude Cowork

コア知財業務、機密データ処理、
ドラフティング

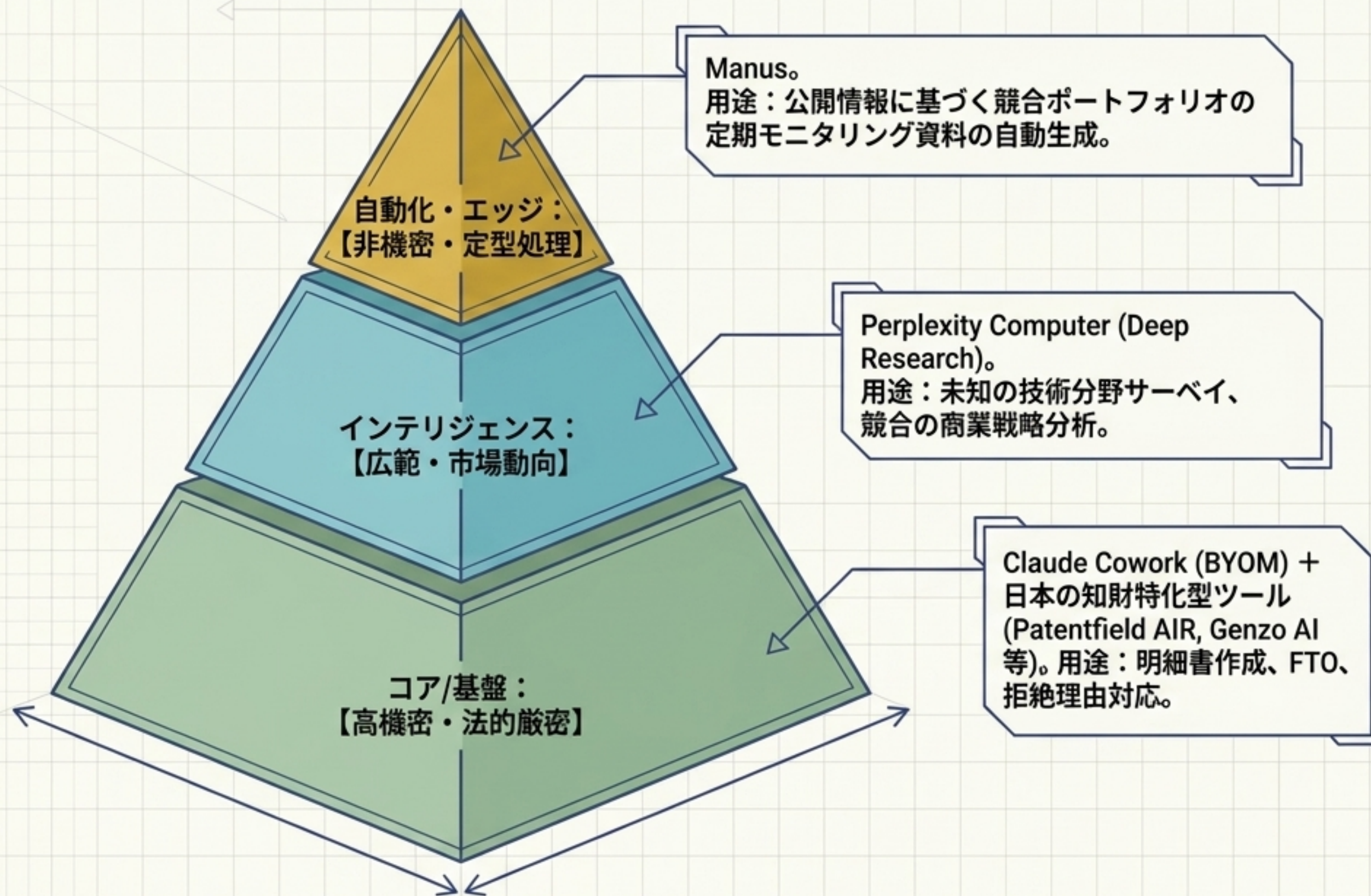
高自律性・広範探索

- ✿ 1. Perplexity Computer (市場調査、NP ML探索、非機密インテリジェンス)
- 📄 2. Manus (定型リサーチの自動化、公開情報のバッチ処理)

X-Axis

自律性と探索の広さ
(Autonomy / Breadth)

結論：2026年版「最適化された知財テックスタック」



戦略的導入に向けた3つの鉄則



機密性の壁を死守せよ

未公開発明およびFTO調査において、SOC2未対応や学習利用されるAPI[※]へのデータ入力は例外なく禁止する。Claude（エンタープライズ版）をコアに据える。



専門ツールとのハイブリッド運用

汎用AIエージェント単体での権利化業務は危険。日本の審査実務に特化した専用ツール（Patentfield等）と組み合わせ、真のROIを創出する。



「人間の専門家」を最終ゲートキーパーに

エージェントがどれほど自律化しても、最終的な侵害判断や法的論述の構築における「弁理士（Patent Attorney）」のレビュープロセスは決して省略しない。